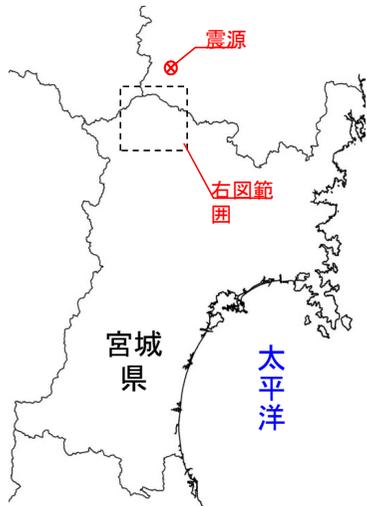
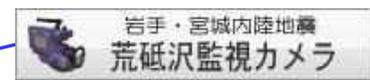
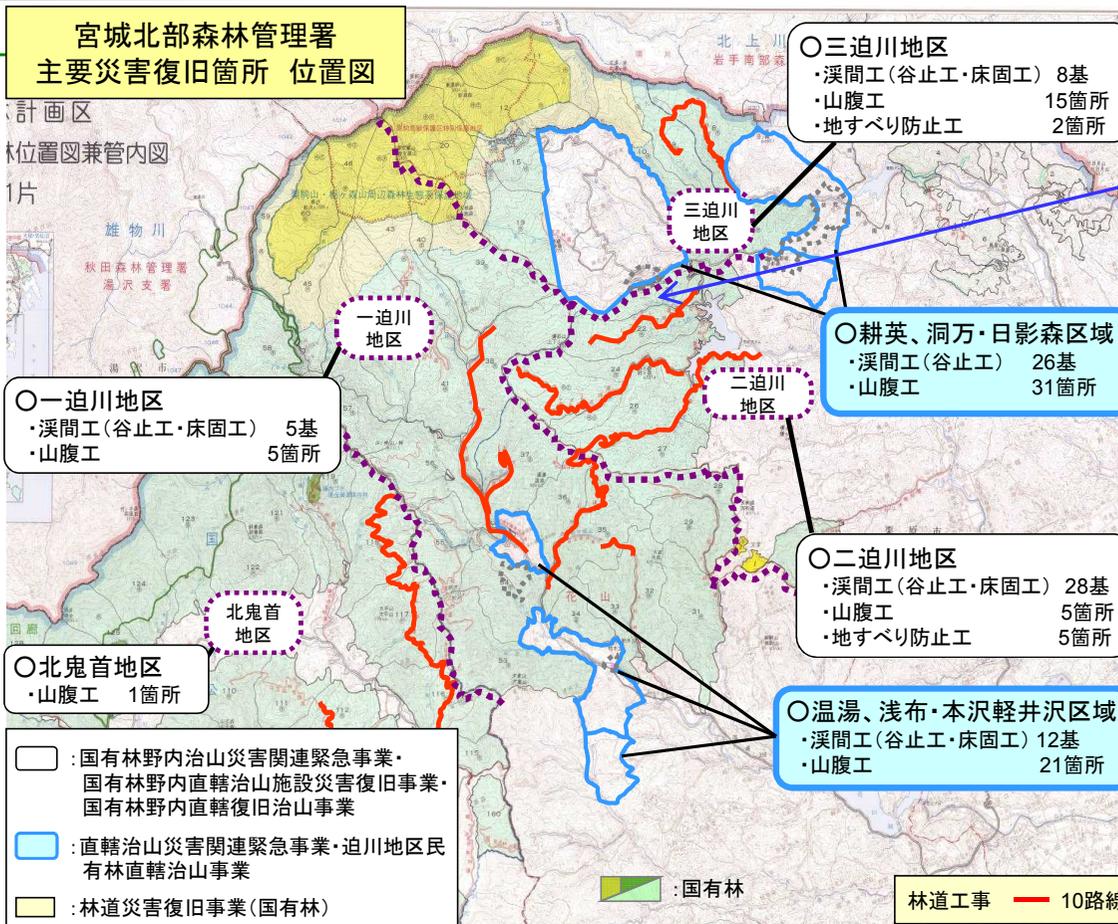


概要

平成20年岩手・宮城内陸地震による被災箇所のうち、平成24年度末までに国有林治山事業で溪間工41基、山腹工26箇所、地すべり防止工7箇所、民有林直轄治山事業で溪間工38基、山腹工52箇所、林道災害復旧事業で10路線を整備しました。平成25年度は、前年度からの継続箇所を含め、国有林治山事業で5件、民有林治山事業で8件の工事を行います。



平成20年 岩手・宮城内陸地震の記録
2008年6月14日 午前8時43分頃発生
地震の規模 M7.2
最大震度 6強(宮城県栗原市、岩手県奥州市)
震源地 岩手県内陸南部
地震の深さ 約8km
山腹崩壊箇所 1,062箇所(宮城県内、H20東北森林管理局調べ)



荒砥沢地すべりに監視カメラを設置しています。東北森林管理局ホームページのトップページ左にある「岩手・宮城内陸地震荒砥沢監視カメラ」のパナーをクリックすると見ることができます。
(http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/index.html)



平成26年1月30日撮影

被災地の復旧状況（山腹工の事例）

温湯地区治山工事

本施工地は栗原市花山本沢温湯地内に位置し、付近には農地や民家、宿泊施設、電力施設、市道、国道等の重要な保全対象が存在します。地震により一迫川に面する斜面で山腹が崩壊し、大量の不安定な土砂が斜面内に堆積しました。崩壊の拡大防止と不安定な土砂を固定するため、被災時から復旧対策を進め、平成21年7月にはコンクリート土留工、落石防護柵工、落石防止網工などの山腹工が完成しました。



平成20年6月撮影

平成25年6月撮影

被災地の復旧状況（溪間工の事例）

シヅミクラ沢治山工事

本施工地は栗原市栗駒字深山岳国有林地内に位置し、下流には荒砥沢ダムをはじめ、宿泊施設、市道等の重要な保全対象が存在します。地震によりシヅミクラ沢の両岸が広範囲に崩壊し、谷に大量の不安定土砂が堆積しました。崩壊の拡大と不安定土砂の流出を防止するため、平成22年度から復旧対策を進め、平成23年度には鋼製枠谷止工などの溪間工が完成しました。



平成20年10月撮影

平成25年6月撮影

平成25年度 工事施行箇所

復旧工事を進めます

- 1 洞万Ⅱ西沼ヶ森(H25) 【鋼製枠谷止工】
床堀中です。

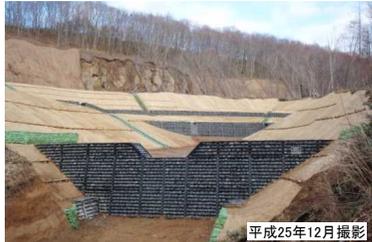


復旧工事が完成しました

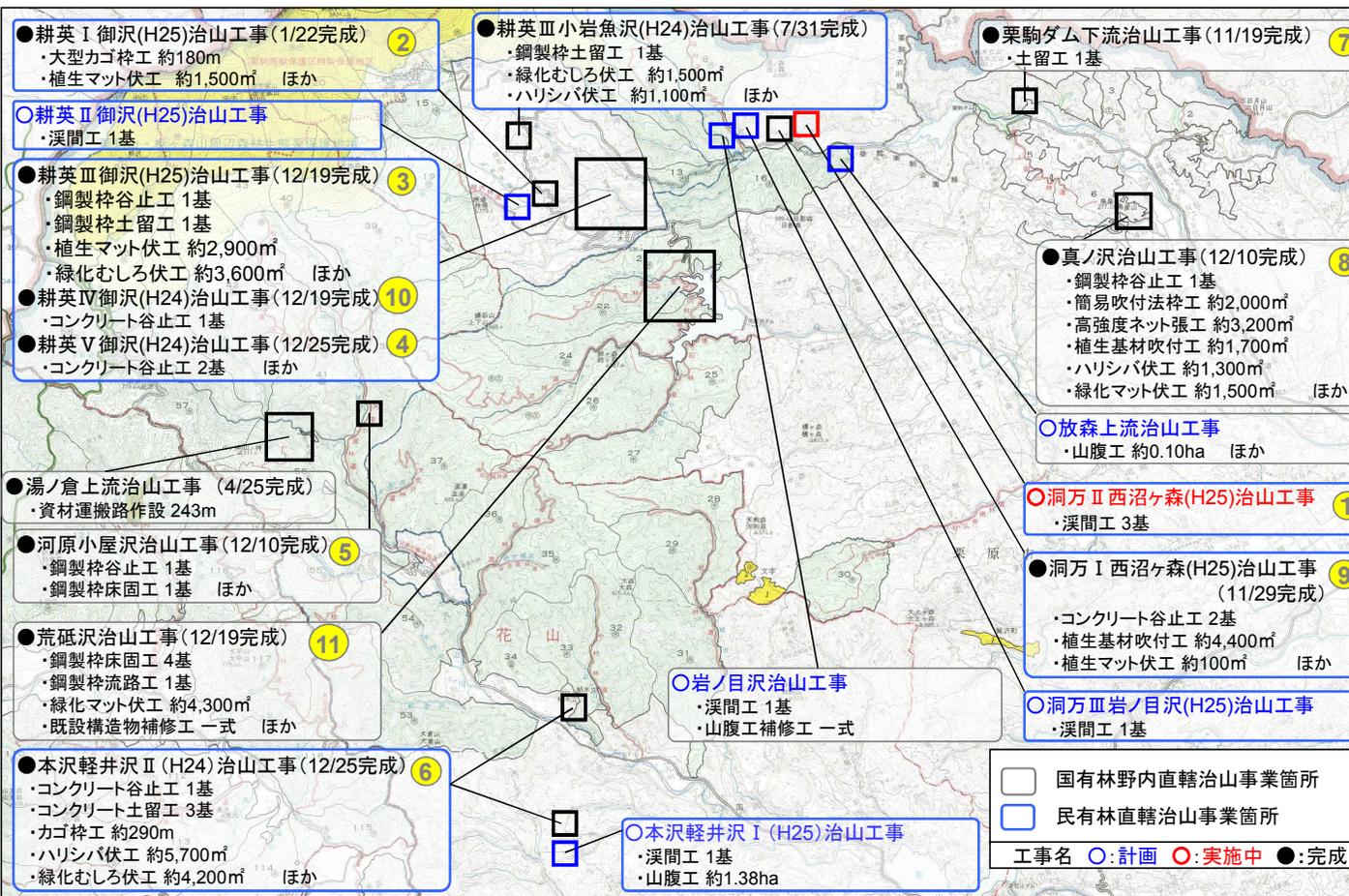
- 2 耕英Ⅰ御沢(H25) 【大型カゴ枠工ほか】
1月22日完成しました。



- 3 耕英Ⅲ御沢(H25) 【鋼製枠谷止工ほか】
12月19日完成しました。



- 4 耕英Ⅴ御沢(H24) 【コンクリート谷止工ほか】
12月25日完成しました。



復旧工事が完成しました

- 5 河原小屋沢 【鋼製枠谷止工ほか】
12月10日完成しました。



- 6 本沢軽井沢Ⅱ(H24) 【コンクリート土留工ほか】
12月25日完成しました。



- 7 栗駒ダム下流 【鋼製枠土留工】
11月19日完成しました。



- 8 真ノ沢 【鋼製枠谷止工ほか】
12月10日完成しました。



- 9 洞万Ⅰ西沼ヶ森(H25) 【コンクリート谷止工ほか】
11月29日完成しました。



- 10 耕英Ⅳ御沢(H24) 【コンクリート谷止工】



地震により御沢兩岸の山腹が大規模に崩壊し、溪流内や山腹斜面下部に大量の不安定な土砂が堆積しました。この不安定な土砂の流出を防止すると共に溪流の安定化を図るためコンクリート谷止工を実施しました。

- 11 荒砥沢 【鋼製枠床固工ほか】



地震により市道直下の山腹から大量の土塊が荒砥沢ダム上部に堆積しました。こうした土砂は雨水等による侵食を受けやすいことから、下流への流出による被害の拡大を防止するため、鋼製枠床固工や流路工、緑化マット伏工などを実施しました。